

中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」（第5回）議事概要について

中央防災会議事務局（内閣府（防災担当））

1. 専門調査会の概要

日時：平成17年2月23日（水） 14:00～16:30
場所：虎ノ門パストラル新館6階「アジュール」
出席者：伊藤座長、池谷、尾田、北原、寒川、清水、鈴木、関沢、武村
廣井の各委員、越村、西山、都司、中村、川俣の各小委員会委員
原田内閣府大臣官房審議官 他

2. 議事概要

事務局等から小委員会における検討経過等について報告した後、「明治三陸地震津波」、「寛文近江・若狭地震」、「安政東海地震・安政南海地震」、「磐梯山噴火」及び「エルトゥールル号事件」に関する報告書案について分科会の主査等から説明を行い、各委員からは以下のような意見等が出された。なお、詳細な議事録については、後日各委員の確認を経た後、公表する。

報告書案について

「明治三陸地震津波」について、「太陽」などの当時の雑誌からも住民の様子を読み取ることができることから、報告書に盛り込んだらどうか。

「明治三陸地震津波」について、津波からは身ひとつで逃げろという「つなみてんでんこ」は重要な教訓であり、強調すべきだが、表現方法に注意が必要。

「寛文近江・若狭地震」について、「時刻の決め方」のコラムはわかりにくい。図等を活用し具体的に記載していく。

「安政東海地震・安政南海地震」について、物語「稲むらの火」は台湾やカンボジアで教科書に掲載されるなど、世界的に影響を与えていることについても記載したらどうか。

「磐梯山噴火」について、報告書の今後の活用を考慮すると、資料の原文も掲載すべきという議論があるが、報告書の読み手は専門家だけではなく、また、全体でおおよそ200ページで収めることとしているため、原文や写真等、重要なデータは添付のCD-R等に入れることとする。

「磐梯山噴火」について、山体崩壊の可能性をハザードマップに記載するかどうかは別の機会に検討されるものであり、本調査会としては、発生した事実をまとめることが中心になるのではないかと。

「エルトゥールル号事件」について、500名以上の死者を出した近代日本で最初の大規模な海難であり、当時の行政（国）や地元がどういった対応をしたのかを示すことは意義深い。

- ・ 議論された各報告書案については、本日の意見を踏まえ、伊藤座長等が必要な修正を加え、後日報告書案として公表する。

今後取りまとめる災害について

今後取りまとめる災害について、事務局から下記の候補が示され、了承された。

- ・ 1847 善光寺地震
- ・ 1923 関東大震災
- ・ 1944 東南海地震・1945三河地震
- ・ 1990 雲仙普賢岳噴火
- ・ 1926 十勝岳噴火
- ・ 1959 伊勢湾台風

< 問い合わせ先 >

内閣府政策統括官（防災担当）付

災害予防担当 企画官 久津摩 敏生

同 主査 西潟 政宣

TEL:03-3501-6996（直通）